

# 1. 感染症速報

令和7年6月6日作成

第22週 5月26日		～		6月1日		作成元:長崎県吉岐保健所 企画保健課					
状況	定点当り	疾患名	状況	疾患名	状況	疾患名	状況	疾患名	状況	疾患名	状況
インフルエンザ	0.00	RSウイルス感染症	0.00	咽頭結膜熱	1.00	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.00	急性呼吸器感染症(ARI)	52.33		
警戒:開始30 終息10		警戒:開始 - 終息 -		警戒:開始3 終息1		警戒:開始8 終息4		警戒:開始 - 終息 -			
感染性胃腸炎	5.50	水痘	0.00	手足口病	0.00	伝染性紅斑	0.00				
警戒:開始20 終息12		警戒:開始2 終息1		警戒:開始5 終息2		警戒:開始2 終息1					
突発性発疹	0.00	ヘルパンギーナ	0.50	流行性耳下腺炎	0.00	新型コロナウイルス感染症	1.00				
警戒:開始 - 終息 -		警戒:開始6 終息2		警戒:開始6 終息2		警戒:開始 - 終息 -					
	発生報告なし		少数の発生あり		流行に注意【注意報レベル】		流行中【警戒レベル】				

※定点数3:インフルエンザ 新型コロナウイルス感染症 急性呼吸器感染症(ARI)  
 ※定点数2:上記以外の疾患  
 ※急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれ、報告数は重複します。

※警戒レベル基準値は表示のとおり(-は設定なし)。注意報レベル基準値は、インフルエンザ:10 水痘:1 その他は設定なし。

# 2. トピックス

## ★感染性胃腸炎に注意しましょう

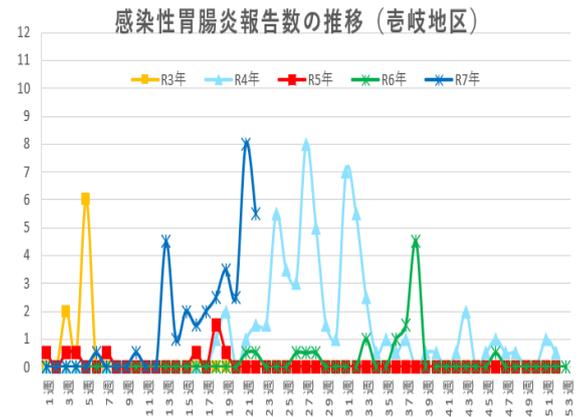
吉岐管内における第22週の定点当たりの報告数は「5.50」で、前週の「8.00」、前々週の「2.50」と例年より多く推移しています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。

原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

感染した人の便、吐物には大量のウイルスが含まれているため、取扱いには十分注意して処理してください。(詳しくは、別添の「感染症対策普及リーフレット」(R5厚生労働省作成)をご覧ください。)



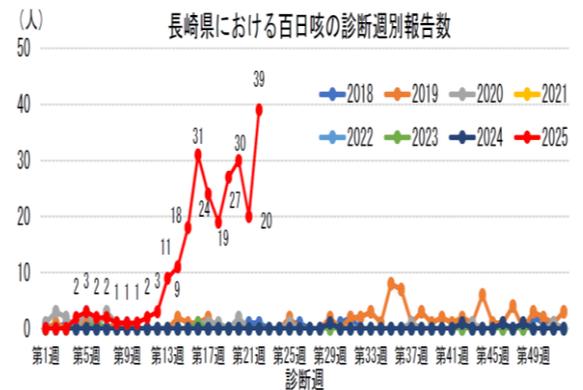
## ★百日咳の報告が多くなっています

吉岐管内において、全数把握疾患となった2018年以降、2025年は第22週まで5件と最多の報告数となっており、30代から50代の報告があつています。

百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常5～10日、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。

県内において、2025年第22週には39件の報告があり、1週間の報告数として2018年以降最多となっています。2025年第22週までの245件の報告において、年代別では、10代(133件、54%)、10歳未満(59件、24%)、40代(21人、9%)の順に多くなっています。

感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。



## ★6月1日～7日は、HIV検査普及週間です

厚生労働省は、平成18年以降、毎年6月1日から6月7日までの1週間を「HIV検査普及週間」と定め、普及啓発イベントを実施しています。

HIV(ヒト免疫不全ウイルス)は、免疫のしくみの中心であるヘルパーTリンパ球(CD4細胞)という白血球などに感染し、免疫力を低下させていきます。HIVは、性的接触、母子感染、血液を介した感染経路により感染し、適切な治療が施されない場合、後天性免疫不全症候群(acquired immunodeficiency syndrome, AIDS, エイズ)を発症します。近年は治療薬の開発が飛躍的に進み、早期に服薬治療を開始すれば、免疫力を落とすことなく、通常の生活を送ることが可能となっています。

早期発見、早期治療により発症を防ぐためには、検査を受けることが重要です。県内の保健所において、HIVの個別相談、無料匿名の検査を実施しています。それぞれ事前の連絡、予約が必要となりますので、検査、相談をご希望される場合は、最寄りの保健所にご連絡ください。

**★梅雨入り前に蚊の発生源を減らしましょう**

蚊媒介感染症は、病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症です。主な蚊媒介感染症には、デング熱や日本脳炎などがあります。日本脳炎以外の蚊媒介感染症は海外からの輸入感染症としての報告がほとんどですが、デング熱では2014年に国内感染例が報告されました。

蚊媒介感染症を予防するためには、蚊に刺されないことが重要です。屋外の蚊が多くいる場所で活動する場合は、できるだけ肌を露出せず、虫よけ剤を使用しましょう。あわせて、蚊の発生を防ぐ環境づくりも有効です。幼虫が発生しそうな屋外に放置された古タイヤや空き容器など梅雨入り前に片付けましょう。また、下草を刈るなど、成虫が潜む場所をなくしましょう！

**～知って防ごう！ダニ媒介感染症～ Part3**

- ・ダニ媒介感染症とは、病原体をもったダニに咬まれることで起こる感染症です。
- ・畑や草むらに多く生息しているマダニ類やツツガムシ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）つづが虫病を媒介します。
- ・春から秋にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期ですので、注意が必要です。



**予防方法**

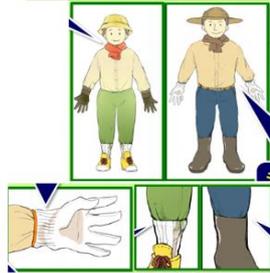
※マダニに咬まれないようにすることが重要!!

農作業や庭仕事、レジャー等、野外で活動する際は

①肌の露出を少なくする!

- ・長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴
- ・シャツの裾はズボンの中に
- ・シャツの袖は手袋の中に
- ・ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる
- ・帽子・手袋着用、首にタオルを巻く

※明るい色の服を着るのもおススメ!



②虫よけスプレーを使用する

③作業後は、身体や服をはたき、ダニに刺されていないか確認する

**もしマダニに咬まれていたら...**

- 無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で適切な処置を受ける
- 数週間程度は体調の変化に注意をする  
発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受ける

【診察時に医師に伝えること】

- ①野外活動の日付
- ②場所
- ③発症前の行動



(別添の『「ダニ」にご注意ください』もご覧ください。)

**5月31日～6月6日は「禁煙週間」です!**

(今年のテーマ)

**受動喫煙のない社会を目指して**  
～わたしたちができることをみんなで考えよう～

たばこを吸わない非喫煙者が、たばこから立ち上る煙や喫煙者が吐き出した煙を吸い込むことを受動喫煙と言い、その煙の中には多くの有害物質(ニコチン、タール、一酸化炭素等)が含まれています。受動喫煙によってたばこを普段吸わない人にも**肺がん**や**脳卒中**、**虚血性心疾患**、**乳幼児突然死症候群**のリスクが高くなるなどさまざまな影響が出てしまいます。周囲を確認し、家族や大切な人たちを守るためにも受動喫煙に配慮しましょう!



**《6月4日～10日は「歯と口の健康週間」です》**

令和7年度 標語

**「歯みがきで 丈夫な体の 基礎づくり」**

歯と口は食事や会話などを楽しむ上で大切なものであり、口の健康を維持することによって全身の健康を守ることもつながります。お家での歯みがき等に加えて定期的に歯科検診やかかりつけ歯科医院で口腔ケアを受けることが大切です。自分では気づきにくい歯や口のトラブルを早期に発見することができます。

- 長崎県は、20、30歳代の65.6%が歯肉に炎症がみられ、40歳以上の69.9%が歯周炎を発症している状況です。
- 令和5年度長崎市の歯周疾患検診受診率は11.0%で市目標値11.5%よりもやや低い状況です。

歯を失う原因の第1位は歯周病です





## 排泄物・嘔吐物処理の手順

- 1 汚染場所に人が近づかないようにし、大きく窓を開けるなどして換気します



- 2 使い捨て手袋とマスク、エプロンを着用します



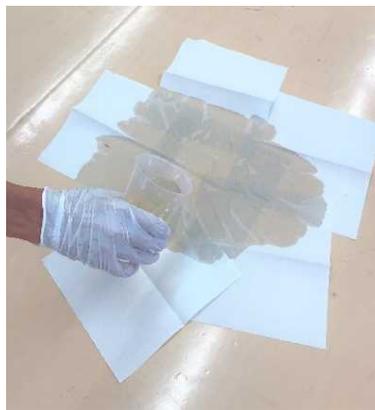
- 3 嘔吐物は、使い捨てのペーパータオル等で外側から内側にむけて、静かに拭き取ります



- 4 使用したペーパータオル等はすぐにビニール袋に入れます



- 5 嘔吐物が付着していた床とその周囲を0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込ませたペーパータオル等で覆うか、浸すように拭きます



- 6 使用したペーパータオル、手袋等はすぐにビニール袋に入れ、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込む程度に入れ、消毒します



- 7 ビニール袋の口をしっかりとしばります



- 8 処理後は、しっかりと手洗いをします



# 「ダニ」にご注意ください



山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう



春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。

野山に生息するダニに咬まれることで

**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病**などに感染することがあります。

## ダニに咬まれないためのポイント！

### ●肌の露出を少なくする

⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等

### ●長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する

⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中

### ●足を完全に覆う靴を履く

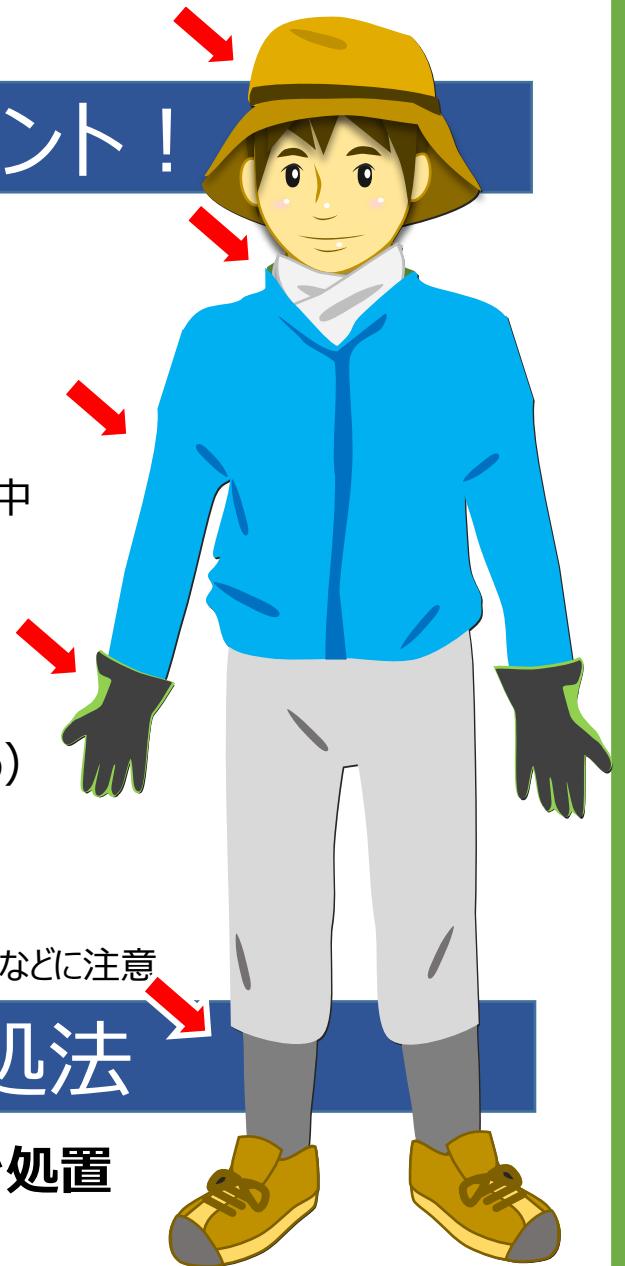
⇒サンダル等は避ける

### ●明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）

\* 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう

\* 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意



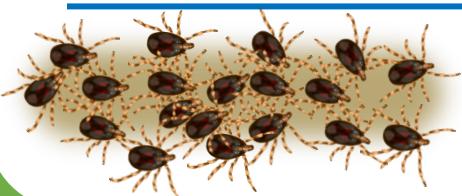
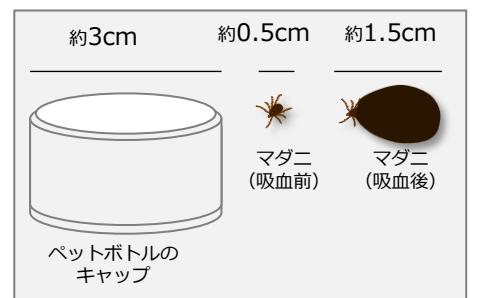
## ダニに咬まれたときの対処法

### ●無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。

### ●マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動



## ダニ媒介感染症（厚生労働省）

各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPも参考にしてください

